

1. 5 中央構造線博物館と六次産業の見学（社会分野）

(1) 研究開発の課題（研究概要）

中央構造線の見学を通して地震国・日本の課題を考える契機を促すことができる。

農業法人の見学を通して日本の産業の経営上の問題点を考える契機を促すことができる。

(2) 研究開発の経緯

3年ごとに第1次産業（農場）・第2次産業（工場）・歴史的建造物・町並みを対象として見学場所を設定していたが、本年度は第1次産業でワークショップを実施した。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説（ねらい、目標）

本事業は科学への関心や批判的思考力などの「科学リテラシー」を促すことができる。

イ 研究の内容・方法

該当教科 地歴・公民科

対象生徒 1・2年希望者 19名

日時場所 10月17日（土）大鹿村中央構造線博物館
なかひら農場



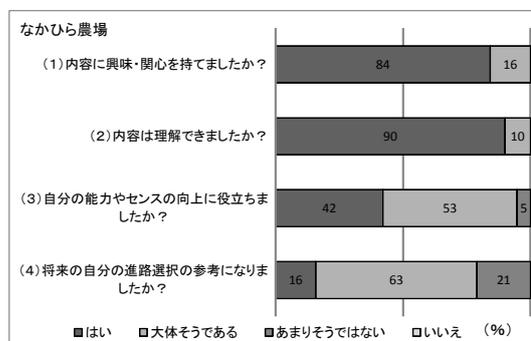
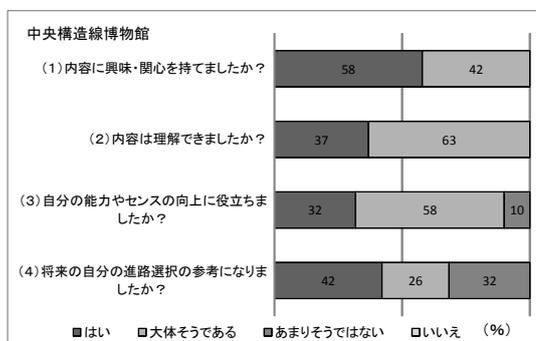
実施内容

見学 「中央構造線博物館・六次産業の見学」

目的 見学を通じて日本列島の構造を理解する。博物館で説明を受ける様子
日本農業の現状と課題を考えさせる。

内容 学芸員 河本 和朗氏による概要説明・博物館施設見学
農場にて農場社長 中平 孝雄氏による概要説明・ジュース工場見学

ウ 検証（成果と反省）



生徒の感想から

- ・地学の授業で学んだ実物の岩石を観察できて良かった。
- ・火山大国に住む日本人にとって地層を知り未来を考えることが大切だと感じた。
- ・外国との競争の中、多角的経営が必要であることがよく分かった。

博物館の見学を通じて地震大国日本の過去・現在・未来を考える契機となった。2年生文系地学選択者は興味・関心を高めることができた。

農場の見学を通じて、日本の農家の経営上の問題点の把握は達成できた。TPPに興味を持った生徒も多数生まれ、社会問題に対する問題意識向上にも貢献した。